

## 辻原の研究から（建築史と領域史の間から） -沖繩の製糖業に関する研究-

### 1. スライド

戦前期の沖繩の製糖業が地域開発に与えた影響

2017年度科学研究費補助金研究会（代表者：明治大学 青井哲人教授）

2017年7月14日(金)16:25-17:25

明治大学 生田キャンパス A館 11F 自在画室

※「H-GIS研究会」（2回目の参加）でも一部修正して報告

2018年2月17日(日)13:30-14:20

総合地球環境学研究所セミナー室3・4

### 2. 関連する文献

- [1] 辻原万規彦, 今村仁美: 戦前期の沖繩における製糖工場とその建設が地域に与えた影響, 日本建築学会計画系論文集, 第82巻, 第737号, pp.1859-1869, 2017.7

以下も印刷して配布

- [2] 同上の論文を投稿した際に, 一次査読で指摘された意見とそれに対する回答書

### 3. その他

- ・日本建築学会計画系論文集に5年ぶりに掲載された論文
- ・その前の2012年1月に掲載された『朝鮮窒素肥料の興南地区社宅街について-野口研究所所蔵史料を用いて-』が辻原にとって初めて建築歴史・意匠分野で掲載された論文
- ・日本建築学会技術報告集には, この間に3編が掲載
- ・2016年4月の熊本地震を受けて, 9月に沖繩県立図書館で現地調査を行って12月に投稿
- ・自分の中では, 社宅街のスケールと領域史のスケールを繋ぐ研究(きっかけ)
- ・これ以前は, 社宅研究会での活動が主で, 社宅街スケールで考えていた
- ・新聞記事を網羅的に閲覧する方法を採用
- ・「工場の立地に与えた影響」と「工場の建設が周囲に与えた影響」を考えるようになった
- ・地理情報の重要性をより一層考えるように